

農 業 功 労 者



1. 氏 名 伊 藤 博 (いとう ひろし)
2. 生 年 月 日 昭和24年12月9日 (満63歳)
3. 現 住 所 横手市
4. 現 職 名 農 業

5. 略 歴

昭和42年3月	県立増田高等学校農業科卒業
昭和42年4月～	就農
昭和60年4月～平成10年3月	J A平鹿町野菜部会部会長
平成7年4月～	平鹿町きのこ培養センター理事
平成10年4月～	J A秋田ふるさと平鹿野菜部会部会長
平成10年4月～	平鹿町ハウス団地組合組合長

6. 褒 賞 関 係

平成9年	秋田県アグリチャンピオンシップ表彰	経営体部門	優秀賞
平成12年	土地改良事業地区営農推進優良事例表彰『東北農政局長賞』		
平成13年	秋田県食と農チャンピオンシップ表彰	がんばる産地部門	
			「新産地の部」最優秀賞

7. 主なる業績

(1) 地域農業振興に尽くした功績

氏は昭和42年3月に高校卒業後直ちに就農し、稲作+野菜の複合経営で専業農家を目指し、その取り組む姿は地域の農家に生産意欲と活力を与え、リーダーとして信望を得ている。

経営的には販売高で8桁から9桁を目標に里芋20年間、春白菜10年間、ハウスポットさくらんぼ6年間、夏秋きゅうり5年間など過去に多品目の栽培を手掛けそのどれもがトップクラスの実績を上げてきた。

この間、研究心とフロンティア精神は衰えることなく、先進技術の習得は勿論のこと、

刺激を受けた若手農業者を始め年代を超えた仲間づくりが作物振興となってきた。

その後転機となったのは、冬季間の農業収入確保と経営基盤を露地型農業から施設型農業へシフトし、菌床しいたけ栽培とハウスほうれん草・小松菜栽培するために平成7年より稲作を全面委託して本格的に取り組んだことである。

専業所得安定化を図るためにJ Aや行政と連携し将来の規模拡大を見越し、当時の仲間3人を牽引して事業導入したほうれん草・小松菜ハウス団地（通称：十五野団地）は産地形成を図り担い手育成農場となっており、行政を始め県内外から多くの農業関係者が優良先進地として視察に訪れており、秋田県の園芸振興施策「園芸メガ団地構想」のモデルともなっている。

また、ハウス部品、コンテナメーカーへ大胆かつ斬新なアイデアを提供することにより、団地内に設けた共同選別・出荷施設は生産コストの軽減と雇用創出の場となり、隣接地に建設した菌床しいたけハウスも含めた団地で働く方々からは地域貢献の面で高く評価されている。

団地で栽培しているほうれん草に自ら名付けした『芳恋草』（ほうれんそう）をJ A秋田ふるさと平鹿野菜部会長として、主販売先である首都圏の青果市場や大手スーパーを積極的に訪問するなど、そのリーダーシップを発揮しながら販売促進に努め、取引先から品質の良さと団地化による安定した出荷量で産地指定を受けるまでに至っている。

氏は、これまで一貫して生産者に拘り、諸団体等の役職に就くことはなかったが、弛まぬ努力からモデル的な農業経営者として生産現場から農業振興に尽力し、管内を県内一の複合産地に育て上げるために行政、J Aと連携を図りながら、その一翼を担った功績は大きい。